

## R5年度 八幡商業高校 学校評価の分析

(次年度に向けての課題、取組み等)

### ○総合評価が「B評価」であるもの

(質問事項 1)

教員：私は、学校経営方針を理解し、魅力ある学校づくりに参画している (A)

生徒：学校全体の目標を知っている (B)

保護者：学校は、教育目標や重点的な取組みをわかりやすく伝えている (A)

- ◆ 生徒の肯定的な回答が68.1%と低いものとなった。教員が学校経営方針や目指す生徒像を理解していても生徒にうまく伝わっていないと考えられる。授業やクラス活動、生徒会活動やクラブ活動など様々な場面で学校の目標や目指す生徒像をはっきりと生徒に示していく必要がある。

(質問事項 4)

教員：わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている (A)

生徒：授業が工夫されていてわかりやすい (A)

保護者：子どもは、授業が工夫されていてわかりやすいと言っている (B)

- ◆ 肯定的な回答が教員94.2%、生徒80.7%、保護者63.9%とかなり乖離がある項目である。教員の自己満足ではなく、生徒が「わかりやすい」と感じる授業を教員は創っていかなければならない。また、次年度は1人1台端末の完成年度となるので、ICT機器を活用しながら深く考えさせる授業にむけて授業改善を行う。

(質問事項10)

教員：進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている (A)

生徒：進路にかかわる資料が整っており、進路についての適切なアドバイスが受けられる (A)

保護者：学校は進路情報を提供し、家庭との意思疎通を積極的に行っている (B)

- ◆ 保護者の肯定的な回答が76.7%と低い。生徒は90.0%と教員よりも高い数値となっていることから、保護者に進路情報が確実に届いていないと考える。HPでの情報発信や一斉メールの機能を活用し、保護者に情報を届ける工夫を行う。

(質問事項17)

教員：人権教育を推進するために、1年を通じて指導の計画を立て、人権意識の高揚を図っている (A)

生徒：LHRなどで人権問題について深く考える機会がある (A)

保護者：子どもは、社会人としてふさわしい人権感覚が身につけている (A)

- ◆ 生徒と保護者の肯定的な回答は高いが教員の「C・D評価」の回答率が高い。1年間の指導計画や3年間を見通した指導について、教員間の共通認識を図る。

(質問事項19)

教員：ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。 (B)

生徒：節電やゴミの分別をこころがけている (A)

保護者：子どもは、節電やゴミの減量をこころがけ、環境に配慮している (B)

- ◆ 昨年度と同様の結果である。生徒は、節電・ゴミの分別などに心がけていると回答し、一方、保護者、教員からは、まだまだ改善の余地があると読み取れる。全校あげて環境問題への関心を高め、改善が目に見えるようにしていきたい。

(質問事項22)

教員：長期・短期留学制度の充実等を図り、国際理解教育を推進している (A)

生徒：国際交流の取り組みが盛んにおこなわれ、異文化理解に役立っている (B)

保護者：学校では国際交流が盛んにおこなわれ、異文化理解に役立っている (B)

- ◆ コロナ禍の影響で、国際交流事業の海外修学旅行は中止を余儀なくされたが、4年ぶりに海外短期研修(オーストラリア)を実施できたことから、肯定的な回答は多くなった。次年度には姉妹校提携を結んでいる台湾の新竹高級商業職業学校の訪問団が来校予定であり、修学旅行も5年ぶりに台湾へ行くことを計画していることから、本校の国際交流事業がコロナ禍前の状態にすべて戻ることになる。海外短期研修も次年度はイギリスのロンドンを予定しているため、多くの生徒が交流等により国際理解を深められるであろう。